

海と灯台の意識調査

2020/10/26



■ 調査の趣旨

「灯台の利活用ニーズに対する意識調査」として、
一般生活者、地方自治体、事業者を大規模調査。
調査結果の分析および、
灯台の利活用等に対する有識者へのインタビューを実施。

灯台の利活用ニーズとポテンシャルについて、
多様な切り口から、その可能性を掘り下げる。

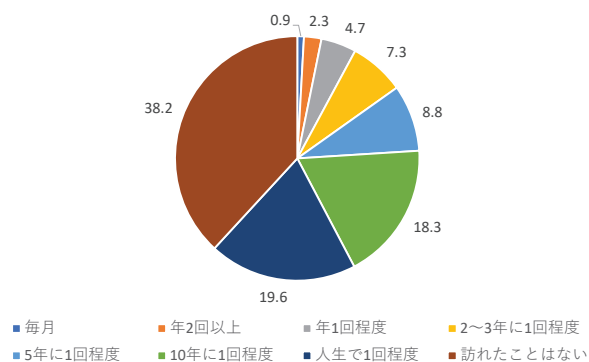
一般

- ・実施業者：株式会社マクロミル
- ・調査票タイトル：「新しい灯台の利活用」に関するアンケート
- ・調査方法：インターネットリサーチ
- ・実施期間：2020年6月11日（木）～13日（土）
- ・対象：10代～70代 全国の男女＋一般アンケート1050名

[Q1] 「灯台」を訪れたことはありますか？訪問頻度もお答えください

**灯台を訪れたことがある人は3人に2人！
しかし訪問頻度は低く、
頻繁に訪れるスポットにはなっていない。**

「灯台」を訪れたことがある方は約62%いるが、その多くは「人生で1回」「10年に1回」「5年に1回」程度と頻度は少ない。一方で「2～3年に1回」「年1回」「年2回以上」「毎月」と答えた方は全体の約15%。この来訪頻度から推測すると、「灯台が目的地になっていない」ということが伺える。

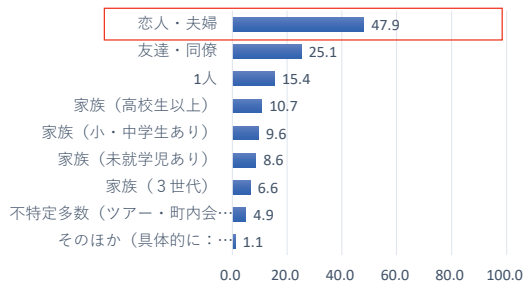


[Q2] 「灯台」には誰と行くことが多いですか？（複数回答可）

「恋人」や「配偶者」と出かける人が最多！ 「灯台」と、その周辺風景は情緒的なイメージ



「恋人・夫婦」が最多となった結果からは、「灯台」及びそれを含めたロケーションに対する情緒的なイメージが影響していると考えられる。一方、そのイメージが固定化されていることから、**来訪者が絞られている可能性も。**例えば「教育施設としての灯台」という要素が加われば、子ども連れの来訪増加に影響するのでは？



[Q3] 海の香りや音、海の景色など、「海と灯台」から感じるイメージとは

「海と灯台」は多くの人にとって 情緒的で、非日常的な時間を体験する場所。

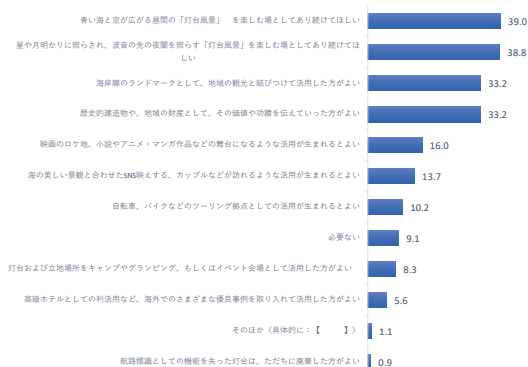
「ぼーっとしていきたくなる」「心が穏やかになる」
「ロマンがあふれる」など、**気持ちを平穏にしてくれる場所というイメージを持つ人が多い。**
これらのことから「海と灯台」は普段の生活をする場とは違う、**非日常的で情緒的な場所と捉える人が多いと考えられる。**
しかしその一方、このような静的・浄化的なイメージに固定化していることも伺える。



【Q4】多くの「灯台」が役割を終えつつありますが、灯台は今後も必要だと思いますか。

灯台本来の役割が終わったとしても、
「灯台風景」を楽しむ
歴史的建造物としての活用を求める声が多い。

航路標識としての役割を終えつつある「灯台」。
しかし**今後も存続を求める声は多い**。
最も望まれているのは「**灯台風景**」を活かすこと。
青空、海、星や月明かりとのマッチングなど、情緒的な場所として
今後も存続し続けることを望む声と考えられる。
次いで「**歴史・社会的価値**」の伝承・活用や
地域の観光とリンクした活用を求める声が多い。
このことから、多くの方が「灯台」の景観価値や歴史・社会的
価値を認めていることが読み取れる。



■ 一般調査結果より

灯台の風景価値は認めつつも、
灯台の文化的・歴史的価値を知る者は少なく、
海と人とのかかわりを考える気づきを与えられていない。

自治体

- ・実施期間：5月中旬～6月
- ・対象：認定灯台自治体（全49市町）
- ・調査方法：事務局からアンケートを送信。記入いただき返信。

北海道	厚岸郡浜中町 商工観光課 観光係 積丹郡積丹町 商工観光課 網走市 観光商工部観光課広域観光推進係 利尻郡利尻富士町 産業振興課 檜山郡江指町 枝幸町役場まちづくり推進課	富山	高岡市 みなと振興課	山口	下関市 観光スポーツ文化政策課
青森	下北郡東通村 経営企画課 商工観光室 西津軽郡深浦町 観光課	福井	丹生郡越前町商工観光課 敦賀市 観光部都市交流課	愛媛	松山市 坂の上の雲まちづくり部まちづくり推進課 西宇和郡伊方町 産業課 観光商工室
秋田	男鹿市 観光文化スポーツ部観光課 男鹿市 観光協会	静岡	下田市 観光交流課	香川	高松市 観光交流課
岩手	下閉伊郡普代村 農林商工課 商工観光係 大船渡市 観光推進室	愛知県	知多郡美浜町 産業建設部産業課 知多郡美浜町 観光協会	高知	土佐清水市 観光商工課
宮城	石巻市 雄勝総合支所 地域振興課	三重県	志摩市 産業振興部観光商工課 鳥羽市 観光課	徳島	阿南市 商工観光政策課
山形	鶴岡市 温海庁舎 産業建設課	和歌山	和歌山市 観光課	大分	佐伯市 観光ブランド推進部 観光課
千葉	いすみ市 オリンピック・観光課 旭市 商工観光課	京都	京丹後市 商工観光部 観光振興課	長崎	長崎市 観光推進課
神奈川	三浦市 政策部市長室特定事業推進担当課	兵庫	淡路市 産業振興部 商工観光課 美方郡番美町 観光商工課	熊本	上天草市 観光おもてなし課
新潟	糸魚川市 能生商工会 経営支援室 新潟市 西蒲区役所産業観光課	広島	三原市 経済部観光課 竹原市 産業振興課	宮崎	日向市 商工観光部 観光交流課
石川	七尾市 産業部商工観光課 珠洲市 観光交流課	岡山	笠岡市 商工観光課	鹿児島	指宿市 産業振興部観光課
		岡山	出雲市 経済環境部観光課 松江市 観光文化課 松江市 松江観光協会美保関町支部	沖縄	中頭郡読谷村 ゆたさむら推進部商工観光課 石垣市 企画部観光文化課

[Q1]あなたにとって、また地域の方々にとって「灯台」はどんな存在ですか？（複数回答可）

「灯台」は観光資源であり、 地域の海のシンボルである！



地元自治体にとっては「灯台」が観光資源という認識は高い。それは「恋する灯台認定」や周遊スポット・イベントなどで活用される中で高まってきたものとも考えられる。他方、地域における「地元の海を見守る存在」など、社会的・文化的な価値も受け継がれていると認識できる。自由筆記のコメントには「風景の中になくはならない存在（青森県東通村）」というものも。



[Q2] 「灯台」を中心とした「灯台観光ツアー」を開発するなら、
どのようなコンテンツを実施できると思いますか？

「灯台」の新たな利活用ポイントは、 「灯台の景観」の素晴らしさを活かすこと。



アンケートで多かったのは「海の絶景や景勝地巡り」。
これに「ロケ地」「サイクリングコース」「海が見えるカフェやレストラン」が続いた。
これらはいずれも「灯台」の風景価値を活かしているというコンテンツ。
「海が見える～」と同率だった「海の文化や歴史を感じる散歩」も、
灯台を含むロケーションであるならば、景観を楽しみながら**教育的価値**を
作り出すことができる。

「灯台」利活用に期待するコンテンツTop.10

1位	海の絶景や景勝地巡り	60.78%
2位	映像作品・創作などのロケ地	33.33%
2位	サイクリングコース	33.33%
4位	海が見えるカフェやレストラン	31.37%
4位	海の文化や歴史を感じる散歩コース	31.37%
6位	ライトアップイベント	25.49%
7位	灯台を海から眺めるクルージング	21.57%
8位	灯台もしくは灯台の敷地に宿泊(グランピングなど)	19.61%
9位	海が見えるSNS映えるスポット	17.65%
9位	魚市場・道の駅などのお土産施設	17.65%

[Q3]さまざまな取組・アクティビティの実施は、「灯台」について、
どんなことを考えるきっかけになると思いますか？

多くの自治体が望むのは、 灯台がもっと地域の「海のシンボル」となること。

地域の文化的なシンボルとしての「灯台」を望む声は多い。
しかし、その一方でほとんどの「灯台」の現在の活用法は、**文化的価値**
の向上に踏み込んだものとはなっていない。
「海のシンボル」としての価値を高めるのであるならば、
「灯台」の歴史的・文化的価値や存在意義を紐解き、
それを**ストーリーやプログラムとして展開**していくことが必要。
そして、それらを実現するための手法の検討が今後の課題と言える。



■自治体調査結果より

景観から生まれる観光価値以外の 海洋文化価値の掘り下げとコンテンツ開発が 不足している

事業者

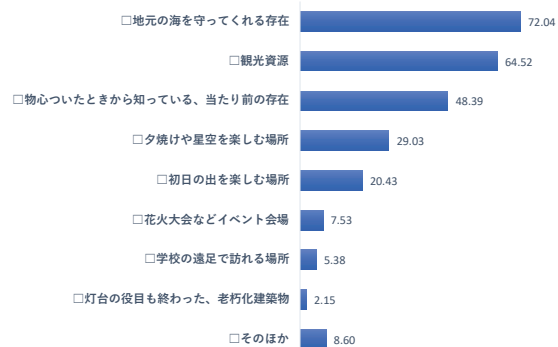
- ・実施期間：5月中旬～6月
- ・対象：認定灯台自治体にある全82の事業者
- ・調査方法：事務局からアンケートを送信。記入いただき返信。

北海道	積丹町商工会 積丹観光協会 オホツク摩山漁村活用体験型 ツーリズム推進協議会 流水崎子館 利尻富士観光ホテル トヨタレンタリース旭川利尻店 江差観光コンベンション協会 北海道江差観光みらい機構	福井	敦賀観光協会 敦賀市立博物館	山口	下関市立しものせき水族館 一の保温泉観光ホテル
		静岡	下田観光協会 下田海中水族館	愛媛	木崎水産 つしまんじゅうの田村菓子舗 しまのテーブルこじま まつやま里島ツーリズム連絡協議会
		愛知県	小野浦館 望水荘	香川	カフェウエ
青森	東通村商工会 御食事処やまだい 海蔵食堂 高 ウエスバ橋山 黄金崎不老不死温泉	三重県	あらふら丸商會 田中 一さん 浜佐建設 まるいひもの店 鳥羽シーサイドホテル	高知	土佐清水市観光協会 足掛国際ホテル
		和歌山	南紀串本観光協会	徳島	阿南商工会議所 かもたカフェ
秋田	なまはげ館 男鹿水族館	京都	岡崎農園 弥栄あじぬ温泉	大分	佐伯市観光協会 おおい環境保全フォーラム
岩手	青の風ふだい 国民宿舎くろき荘 磐石海岸レストハウス 磐石海岸インフォメーションセンター	兵庫	かずみ矢田川温泉 道の駅あまるく 香美町立シオバークと海の文化館 株式会社海空 株式会社炊き出しの里	長崎	長崎国際観光コンベンション協会 I + Land nagasaki
宮城	佐八寿司 一般社団法人Calm Style	広島	休暇村大久野島 三原観光協会	熊本	アンブラグド 天草四郎観光協会
山形	自然体験温海コネクト 朝日屋	岡山	笠岡ベアファーム 笠岡カブトカニ博物館	宮崎	日向驛馬ケ骨茶屋 海の駅ほてしま
神奈川	三浦海楽公社 株式会社シーエフネット	島根県	松江観光協会美保町支部 美保館 出雲観光協会 Tatsuzawa Misaki Cafe	沖縄	島ジェラート&カフェ ISOLA セブンカーズ石垣島 ふんいぬしま 殊波リゾートアクティパーク
高山	伏木高山港・海王丸財団 日の出屋製菓産業				

[Q1] 地域の方々にとって「灯台」はどんな存在ですか？（複数回答可）

地元の人にとって「灯台」は、「海のシンボル」として、 あって当たり前の存在。

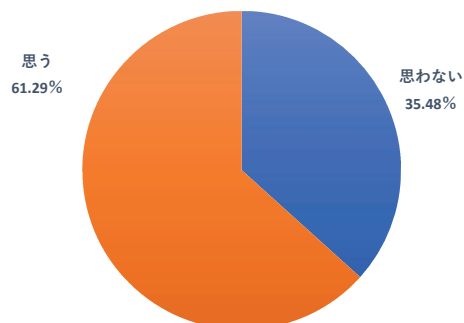
「灯台」は「海を守る存在」であり、「観光資源」とであると認識されている。
であるならば観光資源としての「灯台」の価値を正しく評価し
顕在化していくことで、地元における「灯台」の「海のシンボル」としての
存在感はさらに向上させることができるのではないかと。
そうなることで地域住民のアイデンティティもまた向上していくと考えられる。



[Q2] もしも「灯台」の意匠を簡単な手続き、且つ無償で使用できるとしたら、「灯台グッズ」を企画・販売したいと思いますか？

「灯台」を活用した商品を扱いたい！ という声が、約61%

現時点では多くの事業者が「灯台グッズは扱っていない」が、
しかし本音では「扱いたい」と思う事業者が多い（約61%）ことがわかる。
作りたいものとして挙がったのは、Tシャツ、ステッカー、スマホカバー、
ご当地キャラとのコラボグッズなどさまざま。
しかしその一方、簡単な手続き・無償であっても「扱わない」事業者も約
35%いる。
これは単に作るだけでなく、それが生み出す効果を重視し、
慎重になっていることの表れであるとも考えられる。

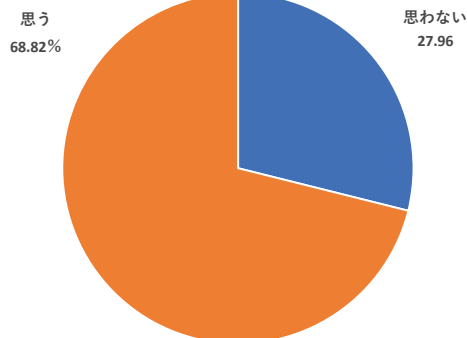


[Q3] もしも「灯台」が簡単な手続き且つ無償で使用できるとしたら、イベントなどを企画・実施したいと思いますか？



「灯台」を活用したイベントを行いたい事業者は、約70%

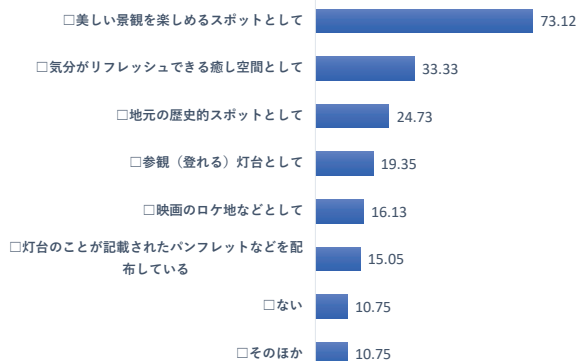
グッズ同様に、イベントについても関心を抱いている事業者は約69%と多い。人気が高いのは「内部見学」、「バンジージャンプ」、「灯台付近で宿泊」「ライトアップ」、「プロジェクションマッピング」、「婚活イベント」など、灯台を会場としたもの。一方、「過去にイベントを開催しようと相談したが断られた」という声も。また、実施の意欲はあるものの、財源や人材確保がネックとなり、開催することが難しいケースも多いようだ。



[Q4] お客様に、「灯台」を観光スポットとしておすすめすることはありますか？

ほとんどの事業者が、「灯台」を地元の観光スポットとして推奨している。

「美しい景観を楽しめるスポット」が全体の約73%と、他と大きく差をつけた。全国の事業者を通じて、「灯台」が景観や情緒的な空間価値のある施設であると認識されていることが確認できる。3つ目には「地元の歴史的スポットとして」が挙がった。例えば、単にそういう場所として紹介するだけでなく、「どんな歴史的スポットか」を解説できるようになれば、さらなる付加価値を生み出すことができるのではないかと。その意味では、「おすすめ」の仕方を工夫することで新たな利活用につながる可能性はある。



■ 業者調査結果より

灯台を海洋文化資産のひとつとしてみたとき
さらなる価値の磨き上げに着手できず、
それらを推進する旗振り役を望んでいる

■ 「灯台記念日」認知度調査

「灯台記念日」の認知度、活用度ともに低いと言わざるを得ない。

一般

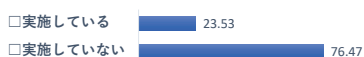
11月1日を「灯台記念日」と定め、毎年、記念日の前後で全国の灯台でさまざまなイベントが行われていることをご存知ですか？



全国共通の記念日である「灯台記念日」は、
灯台を核とした盛り上げを創出するためにも有効な要素。
その認知度向上は目下の課題だと言える。

自治体

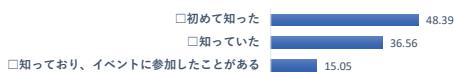
11月1日の「灯台記念日」に合わせてイベントなどを実施していますか？



一般で「灯台記念日」を知っていたのは7%という結果となった。
しかしそれ以上に認知度が足りないと感じるのは、「灯台」周辺で事業を展開している
事業者でも知らなかった人が半数とも言える約48%にのぼったことと、
「灯台記念日」に合わせて自主的なイベントを行っていない（行っていない）
自治体が約76%にものぼるといふ事実。

事業者

11月1日の「灯台記念日」に合わせてイベントなどを実施していることをご存知ですか？



「灯台」を観光資源として利活用していく上で、「灯台記念日」のさらなる活用
（この日をきっかけとしたイベント開催など）と、認知度向上（イベント告知と運動した
「灯台記念日」のPRなど）を並行して進める必要があると考えられる。

3つのアンケート調査から見たまとめ

■ 利活用における課題

一般・自治体・事業者ともに「灯台」に大きな関心があるものの
コンテンツの掘り下げと磨き上げなど課題は山積み

「観光資源」の
ポジションの違い

自治体、事業者は灯台を
地域の観光資源と認識する一方で
一般(観光客)が訪れる目的は
ドライブで偶然立ち寄る程度。

目的地になっていないということは最大の課題。
「灯台」を訪れる意味や価値を
デザインしていく必要がある。

「訪れる人」と
「訪れて欲しい人」
の違い

自治体、事業者が想定する
ターゲット層(灯台ファンや家族連れ)と
実際の観光客(恋人、夫婦)が
合致していない。

灯台ファンのニーズに応える掘り下げが必要。
その上で場所によっては家族向けコンテンツ開発
も地域の特色を際立たせることにつながる。

求められる
コンテンツを
生み出せていない

一般(観光客)からは、灯台参観、
イルミネーション、灯台の歴史・建築
についてのナビゲートなど多様な
活用が求められている。

「灯台」を通じて海洋文化の奥深い世界を
地域の特色を活かした価値あるコンテンツとして
関係者が連携しながら磨き上げる必要がある。

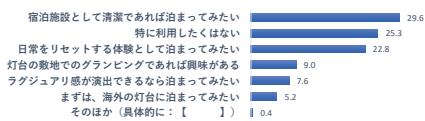
その他

■自治体、事業者、一般の灯台宿泊体験への興味

自治体、事業者、一般ともに「灯台」を宿泊施設とすることに興味あり。

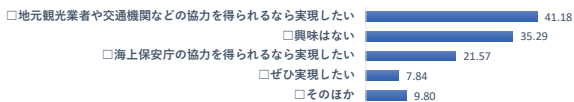
一般

「穏やかな海時間の体験」として、「灯台」に宿泊することができたら利用してみたいと思いますか。



自治体

海外で人気のあり、役割を終えた灯台を利用した宿泊施設を実現したいと思いますか？



事業者

「灯台に泊まる」ことが、地元でも実現できたら良いと思いますか？

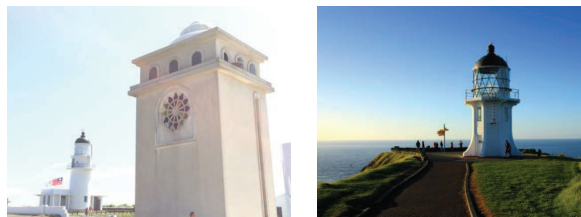


自治体では約65%、事業者では約81%が、「灯台」を宿泊施設とすることに前向きな答えとなった。

他方、宿泊する側の一般も約75%は灯台に宿泊することに興味を示している。

とはいえ、いずれも条件付き。宿泊施設として活用するためには海上保安庁や地元観光業者、交通機関、そして自治体が協力し合う必要がある。

また宿泊する側としては「清潔感」「ラグジュアリー感」といった安心感や特別感が必要。もし、それらを踏まえた宿泊施設として展開できれば、さらなる需要に結びつく可能性は考えられる。



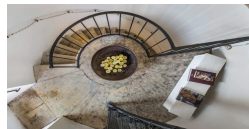
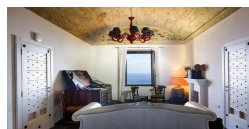
■ 灯台を活用した、海外の宿泊施設（事例紹介）

最果てのローケーションを堪能できる、高付加価値化による活用



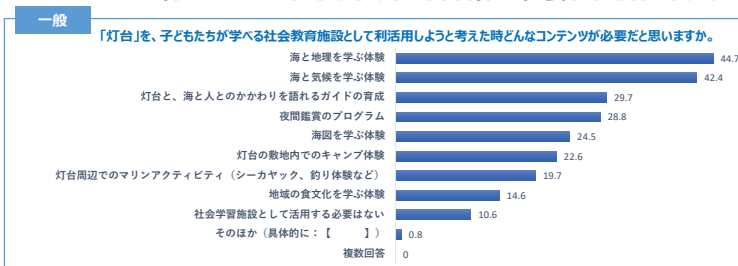
イギリスのイーストボーンにあるホテル、「Belle Tout Lighthouse」は1832年に建てられ、1902年まで稼動していた灯台をホテルに改装

欧米には灯台を改装したホテルはいくつかあるが、イタリアのサルディーニャ島に建つホテルは5つ星で特に人気



■ 「社会教育施設」としての灯台に対する認識

約90%の一般とほとんどの自治体が社会教育施設としての「灯台」に期待している。



自治体の結果からは、「灯台」を核として地域の歴史や文化、さらには海について学ぶ可能性が認識されていることがわかる。つまり、「灯台」には社会教育施設としてのポテンシャルがあるということ。

これは、一般のアンケートで上位となった「海と地理」、「海と気象」、「灯台と海と人との関わりを語るガイドの育成」とも通じる。



ポイントは「灯台」そのものはもちろん、地域の歴史や文化を紐解くストーリーを作るなど、学びをテーマとした観光資源としての磨き上げを行うこと。それが高い訴求力につながると思われる。

■ 灯台利活用におけるモデル事業

灯台キャンププログラム開発

長崎県長崎市の伊王島灯台で、海図を学んだり、船から灯台を見たり、夜間に灯台の光を学ぶなど、
灯台を社会教育施設として活用するプログラムをモデル事業として実施



長崎県長崎市（伊王島灯台）で実施

■ 「海と灯台の意識調査」の結果はタブロイド紙に掲載

灯台の海洋資産としての文化・歴史的価値を掘り下げ、さらに、灯台の新たな利活用ニーズを探るため、

「海と灯台の意識調査」の結果や、異分野・異業種の専門家たちによる、多様な視点からみた灯台利活用の可能性
についてのインタビューを掲載。

